

# 就職活動における自己分析支援サービスの検討 -自分史作成を目的としたグループワークの実施-

上野 歩<sup>†</sup> 中村 亮太<sup>‡</sup> 上林 憲行<sup>†</sup>  
東京工科大学<sup>†</sup> 湘北短期大学<sup>‡</sup>

## 1 はじめに

日本の新卒採用では書類選考を設けている企業が多い。書類選考では、学生は履歴書やエントリーシートに自身の経歴、自己PR、志望動機などを記述して企業に提出する。自己PRの材料を見つける方法に自己分析があるが、1人で取り組んでも自身の性格や強み・弱みなどを把握できない可能性が推察される。

本研究の目的は学生の自己分析を支援することであり、学生同士で取り組める自分史作成を目的としたグループワークを提案する。

## 2 自分史作成を目的としたグループワーク

### 2.1 自分史に着目した理由

自分史とは自分自身の歴史を文章化したものであり、その形式や表現方法は自由である[1]。また記述内容は、過去の体験やその時の感情などである。筆者が自分史に着目した理由は、以下の2点が自己分析の支援に貢献すると考えたためである。

- 年表形式で記述する方法
- インタビュー形式で作成する手法

まず、年表形式で記述する方法の利点を説明する。自己分析の支援を目的としている既存のワークシートは、大学時代の取り組みやこれまでに力を注いだことなど、過去の体験の一部に焦点を当てているものが多い。自分史を年表形式で記述する方法だと、過去の体験の全体に焦点が当たり、自身のこれまでの取り組みを網羅することや、複数の体験から自身の性格を把握することが可能である。

次に、インタビュー形式で作成する手法の利点を説明する。インタビュー形式では自分史を1人で作成せず、他者の取材に回答しながら作成

Support of the self-analysis in job hunting-Collaborative Learning for create personal history-  
Ayumu UENO<sup>†</sup>, Ryota NAKAMURA<sup>‡</sup>,  
Noriyuki KAMIBAYASHI<sup>†</sup>  
<sup>†</sup>Tokyo University of Technology <sup>‡</sup>Shohoku College

するため、過去の体験を想起しやすい、自身の性格を把握する際に他者の意見を聞ける、などの利点が挙げられる。

以上の理由より、自分史作成を目的としたグループワークによる自己分析支援を提案する。

### 2.2 グループワークの手順

グループワークの手順を以下に記す。

- ① 3人1組のグループを作成
- ② 回答者、取材者、書記の役割に分担
- ③ 自分史の作成方法と質問方法をまとめた資料を配布
- ④ 書記は自分史テンプレートを取得(図1)
- ⑤ 取材者は回答者にインタビュー、書記はその内容を自分史テンプレートに記述
- ⑥ 回答者の自分史が完成したら、役割を交代  
学生は3人1組のグループを作成して役割を分担する。学生はインタビューを始める前に、自分史の作成方法や質問方法をまとめた資料を確認する。自分史の作成方法はWebサイトから、質問方法は本学の模擬面接官マニュアルから抜粋した。書記は、表計算ソフトで作成された自分史テンプレートを取得する。テンプレートには記入欄が4つあり、所属には学校名を、学年には学年を記述する。分類では出来事の種別を8項目から選択する。出来事では回答者が話した内容を1つ記述する。取材者は回答者にインタビューする、書記はその内容をテンプレートに記述していく。3人分の自分史が作成されるまで②~⑥を繰り返す。

	A	B	C	D
1	○○○○の自分史			
2				
3	所属	学年	分類	出来事
4				
5			勤学	
6			部活・サークル	
7			アルバイト	
8			資格	
9			ボランティア	
10			海外	
			趣味・特技	
			その他	

図1 自分史テンプレート

### 3 グループワークの評価

#### 3.1 グループワークの実施

自分史作成を目的としたグループワークを本学3年生に実施した。

**対象者** 本学メディア学部3年生で同研究室に所属する16名。

**時期** 2014年9月下旬。

**方法** 2.2 グループワークの手順に沿って実施した。グループワークの時間は1人30分で、3人で計90分とした。また3年生16名には、事前に4年生3名で実施したグループワークの映像を抜粋したものを視聴してもらった。

**補足** 3年生の人数が足りないため、同研究室に所属する4年生2名も交えた18名でグループワークを実施した3年生のみのグループが4つと、3年生2名と4年生1名のグループが2つの計6グループとなった。

#### 3.2 アンケート調査

グループワークを実施した3年生16名にアンケート調査した。調査内容は、本提案は自己分析に役立つか、本提案は学生同士で実施できるかの2点である。

まず本提案は自己分析に役立つかの回答結果を図2に示す(図2)。回答者数は15名で、全体の40.0%である6名が役立つと回答している。また全体の60.0%である9名がどちらかというと役立つと回答している。回答結果から、本提案は学生の自己分析に有効である可能性が示唆された。

次に本提案は学生同士で実施できるかを調査する。本提案を楽しみながら取り組めれば、学生同士でも実施できると考え、本提案をどのように感じたかを調査した(図3)。回答者数は15名で、全体の66.7%である10名が楽しかったと回答している。また全体の26.7%である4名がどちらかという楽しかったと回答している。全体の6.7%である1名は、どちらかというと退屈だったと回答していた。その1名に理由を聞いたところ、取材者となって回答者にインタビューするのが難しいためであると答えていた。回答結果から、本提案を楽しみながら取り組むためには、インタビューに苦手意識を抱いている学生に対応する必要があると考えられる。

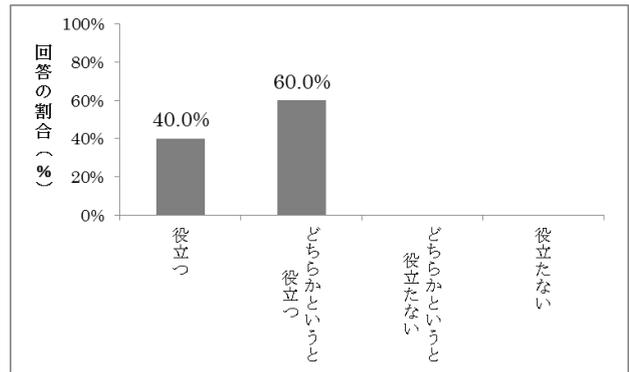


図2 本提案は自己分析に役立つかの回答結果

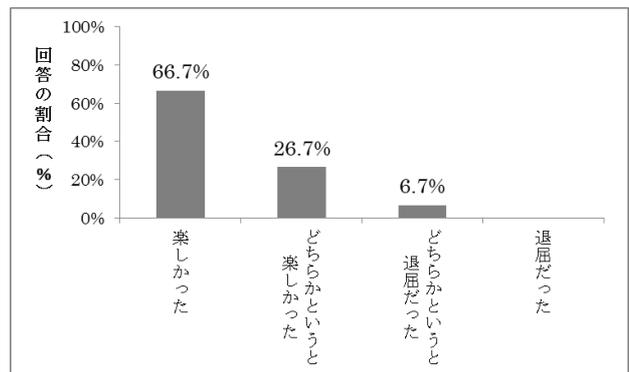


図3 本提案をどのように感じたかの回答結果

### 4 おわりに

本研究の目的は、学生の自己分析を支援することであり、自分史作成を目的としたグループワークを提案した。また本学3年生16名を対象にグループワークの実施とアンケート調査に取り組んだ。その結果、本提案は自己分析に有効である可能性が示唆された。

#### 参考文献

1) 一般社団法人 自分史活用推進協議会：気軽に楽しみ、自分らしく生きるためのツールとして活用できる自分史  
<http://jibun-shi.org/column/miryoku/kigaru-ni-tanosime/>